

第2回日本医薬品安全性学会・ワークショップ 2

先着72名(ディスカッション希望者32名、聴講者40名)

ワークショップの意義

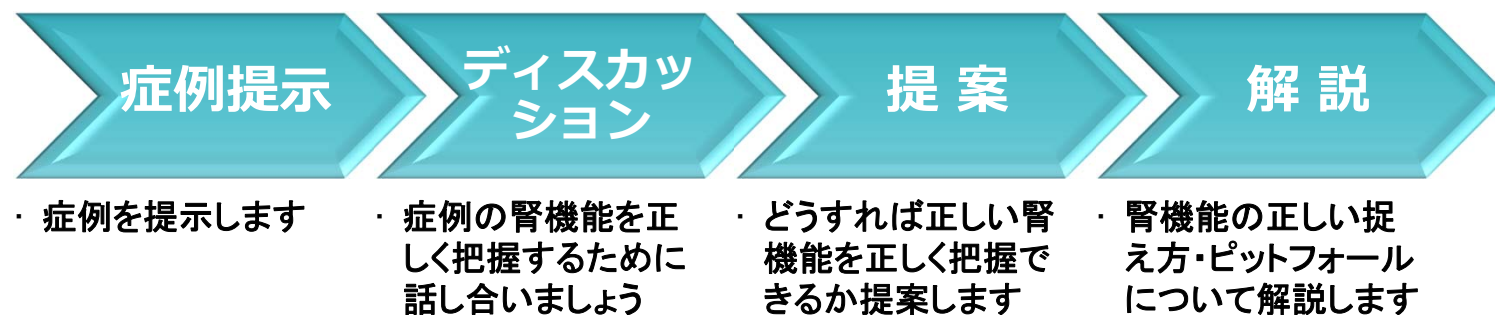
「目の前の症例に対して有効かつ安全な最高の薬物療法を責任をもって提供する」のが薬剤師の務めです。小グループに分かれ、実際の症例に基づいてグループワークを行う実践的なワークショップに参加してみませんか？病態生理と薬物療法に関する基本的な解説も行います。情報の収集能力、検索能力を高めるためにPCやiPad、スマホ、医薬品集などの持込みを歓迎します。

例えばあなたは以下のような症例に対して薬剤師としてどのように考え、どのような行動をしますか？今回のテーマは「腎機能のとらえ方」です。

- 添付文書がCCrで表記してるけどeGFRは使える？
- 長期臥床の高齢者の腎機能がeGFRが200mL/min/1.73m²って腎機能がよい？
- 推算CCr37.5mL/minの患者にダビガトランが投与された。すでにワソランが投与されている。

※これらは1例でありこれらの症例がそのまま出るわけではありません。

初心者・動態や病態がよくわからない人こそ参加してください！
みんなで病態を診る力、処方を読み取る力を磨きましょう。



司会進行：柴田啓智（済生会熊本病院薬剤部）
症例解説：平田純生（熊本大学薬学部臨床薬理学分野）
チューター：森 直樹（くまもと温石病院薬局） / 近藤悠希（熊本大学薬学部薬剤情報分析学分野）
吉田拓弥（白鷺病院薬剤科） / 門脇大介（熊本大学薬学部臨床薬理学分野）

医薬品有害反応を未然に防ぐために腎機能をどうとらえるか？

スモールグループディスカッションによる症例検討会